

# 日蓮宗現代宗教研究所の経過

——設立とその経過の概略——

日蓮宗第十一宗会において、長谷川正徳議員より建議案として「教学布教研究所」の設立案が提出され、現代における布教とその教学面の研究が要望された。昭和三十七年十二月十九日、茂田井教亨教務部長設立審議委員会を召集、名称、規程、あり方等審議さる。第十三宗会において仮称現代宗教研究所設置準備費一〇〇万円を計上。昭和三十八年四月十七日、設立準備委員会開催。昭和三十八年五月二八日、第三回設置準備委員会。六月十四日第四回設置準備委員会、七月三十日第五回設置準備委員会。十二月六日第六回設置準備委員会。昭和三十九年一月二十日第七回設置準備委員会、現宗研調査報告書を発表（庶民における日蓮像、日蓮宗寺院実態調査、日蓮宗社会事業実態調査等）

第十四宗会において日蓮宗現代宗教研究所設置可決、研究所発足す。目的「諸宗教の実態を調査、本宗教学の現代的解明と時代に適應する信行及び布教体系の確立に寄与するため」とする。研究部、調査部、庶務部を置く。初代所長に久保田正文師が就任。役職員を委嘱す。昭和三十九年四

月七日顧問会開催、事業計画を決める。

## △昭和三十九年度事業▽

- (1) 伝道ハンドブック第一集の編集並びに「布教の基礎と技術」の研究（現代における布教伝道の思想的基礎、本宗の伝道を他宗教、説教、対話、文章、組織と運動、説教文例と創作の実際、特殊な布教方法、本宗における布教伝道の方向と理想）
- (2) 日々の聖句刊行企画
- (3) 創価学会問題研究
- (4) 勝浦市における創価学会の進出状況調査
- (5) 宗教意識調査準備

## △昭和四十年年度事業▽

- (1) 伝道ハンドブック第一集「説教のしかた」の出版、第二集「諸宗教理解の手引」の企画
- (2) 現宗研だよりタイプ印刷で刊行
- (3) 本尊論争の問題点摘出
- (4) 他教団調査を実施
- (5) 勝浦市における創価学会進出状況調査報告書刊行
- (6) 道徳意識調査準備を行う。
- (7) 創価学会問題の研究
- (8) 現代布教の問題研究
- (9) 日々の聖句編集資料を集める。

### △昭和四十一年度事業▽

- (1) 日蓮宗主義大綱の解説を作成。
- (2) 本尊論の問題点を解明。
- (3) 伝道ハンドブック第二集「諸宗教理解の手引」刊行。
- (4) 布教のための教養シリーズ「日本仏教の源流」執行海秀著。「新興宗教とはなにか」中濃教篤著を刊行。
- (5) 宗勢調査資料の集計完了。
- (6) 宗勢白書プランの作成。
- (7) 真宗大谷派の「同朋の会」運動調査。
- (8) 研究成果のまとめとして現宗研「所報」第一号を刊行。

### △昭和四十二年度事業▽

- (1) 宗義の簡明化、現代化の課題にもとづいて宗義大綱の「解説書」を作成。
- (2) 布教のための教養シリーズ「伝道のあゆみ」刊行。
- (3) 創価学会・公明党の問題抽出のための研究。
- (4) 日蓮宗白書作成の企画書を発表。
- (5) 近代における日蓮系諸教団の研究―仏立宗を中心に研究発表。
- (6) 真宗大谷派「同朋の会」運動の第二次調査結果を発表。
- (7) 仏教諸教団における自己改革運動の調査―仏教教団の直面する問題を解明。
- (8) 修験道に関する予備調査―吉野大峰山の山岳修行の実状を調査。
- (9) 教団における教育事業の予備調査。
- (10) 「所報」第二号に研究の成果を発表。

### △昭和四十三年度事業▽

- (1) 第一回日蓮宗教化研究会議開催、本宗の伝道布教―

音楽・言説・文書・視聴覚・行法教化などの問題、都市・農村伝道、青少年教化等教化活動について研究を行った。(2) 近代における日蓮教団史の研究成果を発表。(3) 宗教法人としての寺院経理の研究を始める。(4) 吉野大峰連山の修験道山岳修行の現地調査―宗教心理学的研究成果を発表。(5) 真宗大谷派の「同朋の会」の第三次調査―信仰運動の背景にある現代真宗学をたずねる。(6) 教団教育の教材収集と研究。(7) 出版物第一回教化研究会議の記録「現代の伝道」の刊行、「寺庭婦人の手帖」の執筆編集「所報第三号」を刊行。

(庶務・木村勝行)